

2025（令和 7）年 12 月 25 日
科学技術振興機構（JST）

日 ASEAN 科学技術・イノベーション協働連携事業（NEXUS） 2025 年度若手人材交流プログラム公募における交流計画の採択について

JST（理事長 橋本 和仁）は、日 ASEAN 科学技術・イノベーション協働連携事業（NEXUS）^{注）}における 2025 年度若手人材交流プログラムの交流計画の採択を公募により決定しました。

NEXUS では、「日 ASEAN 友好協力 50 周年」を機に、日本と ASEAN の長きにわたる国際共同研究や研究人材交流の取り組みを基盤とし、双方の強みを生かした柔軟で重層的な科学技術協力を推進しています。

その取り組みの 1 つである若手人材交流プログラムでは、日 ASEAN 諸国の若手研究人材の相互交流や関係構築、国際頭脳循環の活性化および次世代の優秀な研究者の育成に貢献することを目指します。

本年度の公募では、2025 年 8 月 22 日（金）から 10 月 15 日（水）までの期間に合計 73 件の応募がありました。これらの応募について、若手人材交流推進委員会（運営主幹：小尾 晋之介 慶應義塾大学 理工学部 教授）による審議を経て、44 件の採択を決定しました。採択された交流計画における日本側交流機関の内訳は、大学が 23 校、国立研究開発法人が 2 機関となりました（別紙）。

NEXUS 若手人材交流プログラムのウェブページには、関連情報を掲載しています。

URL : <https://www.jst.go.jp/aspire/nexus/y-tec/index.html>

注）日 ASEAN 科学技術・イノベーション協働連携事業（NEXUS）

NEXUS : Networked Exchange, United Strength for Stronger Partnerships between Japan and ASEAN

<添付資料>

別紙：2025 年度 日 ASEAN 科学技術・イノベーション協働連携事業 若手人材交流プログラム
採択交流計画一覧

参考：2025 年度 日 ASEAN 科学技術・イノベーション協働連携事業 若手人材交流プログラム
公募の概要

<お問い合わせ>

<事業に関すること>

科学技術振興機構 経営企画部 さくらサイエンスプログラム推進本部

〒102-8666 東京都千代田区四番町 5 番地 3

庄司 真理子（ショウジ マリコ）

E-mail : y-tec@jst.go.jp ※お問い合わせは電子メールでお願いします。

＜報道に関すること＞

科学技術振興機構 広報課

〒102-8666 東京都千代田区四番町 5 番地 3

Tel : 03-5214-8404 Fax : 03-5214-8432

E-mail : jstkoho@jst.go.jp

＜科学を支え、未来へつなぐ＞

例えば、世界的な気候変動、エネルギーや資源、感染症や食料の問題。私たちの行く手にはあまたの困難が立ちはだかり、乗り越えるための解が求められています。JST は、これらの困難に「科学技術」で挑みます。新たな価値を生み出すための基礎研究やスタートアップの支援、研究戦略の立案、研究の基盤となる人材の育成や情報の発信、国際卓越研究大学を支援する大学ファンドの運用など。JST は荒波を渡る船の羅針盤となって進むべき道を示し、多角的に科学技術を支えながら、安全で豊かな暮らしを未来へとつなぎます。

JST は、科学技術・イノベーション政策推進の中核的な役割を担う国立研究開発法人です。

2025年度 日ASEAN科学技術・イノベーション協働連携事業 若手人材交流プログラム 採択交流計画一覧

| No. | 日本側交流機関 | 実施主担当者 | コース | 相手国側交流機関 | テーマ |
|-----|---------------|---|------|--|--|
| 1 | 北海道大学 | 押木 守 大学院工学研究院 環境工学部門 准教授 | 若手人材 | [マレーシア]マラヤ大学、マレーシアサイエンス大学 [タイ]タイ国立科学技術開発庁、モンクット王工科大学 トンブリー校 | カーボンニュートラル社会を牽引する次世代グリーンテクノロジー人材の育成 ― バイオ副産物バイオマスを活用するメタン発酵技術の国際共同開発 ― |
| 2 | 東北大学 | 岩淵 弘信 大学院理学研究科 教授 | 若手人材 | [インドネシア]バンドン工科大学 | 複合衛星・AI気象予測技術による島嶼域気候レジリエンス強化のための日・インドネシア協働関係構築 |
| 3 | 東北大学 | 北川 尚美 大学院工学研究科 教授 | 若手人材 | [マレーシア]マラエ科大学、マレーシアプトラ大学 [タイ]チュラロンコン大学 | 持続可能な油脂産業を拓くグリーンテクノロジー研究に関する次世代人材育成 |
| 4 | 東北大学 | 田中 良和 大学院生命科学研究所 教授 | 若手人材 | [タイ]マヒドン大学、シーナカリンウィロート大学 | タイの海洋資源を基盤としたグリーンな抗 Dengue 化合物開発のための国際若手人材交流 |
| 5 | 東北大学 | 馬淵 拓哉 流体科学研究所 准教授 | 指導人材 | [インドネシア]インドネシア大学 | 生命・工学分野を融合した学際研究に資する先端的分子シミュレーション技術教育と人材交流 |
| 6 | 筑波大学 | 前田 義昌 生命環境系 准教授 | 若手人材 | [マレーシア]マレーシア工科大学 | 地球規模課題の解決に持続環境科学の観点から貢献する高度実務専門家の育成に資する若手人材交流 |
| 7 | 千葉大学 | 天野 佳正 大学院工学研究院 准教授 | 若手人材 | [インドネシア]ガジャマダ大学、バンドン工科大学 [マレーシア]マレーシア工科大学 | 三国間共同研究を軸とする環境浄化材料開発をけん引する次世代イノベーターの養成 |
| 8 | 東京農工大学 | サトリア・ズルカルナエン・ビスリ 大学院工学研究院 先端電気電子部門 准教授 | 若手人材 | [インドネシア]国家研究イノベーション庁 | 持続可能な電子・エネルギーデバイスに向けた新興半導体ナノ材料研究のための若手人材育成 |
| 9 | 電気通信大学 | 美濃島 薫 大学院情報理工学研究所 教授 | 若手人材 | [シンガポール]南洋理工科大学 | 先端光とファイバの高度利用による次世代環境光センシングに向けた若手人材群の育成 |
| 10 | 東京科学大学 | 小酒 英範 工学院 機械系 教授 | 若手人材 | [タイ]チュラロンコン大学、タイ国立エネルギー技術センター [ベトナム]ハノイ工科大学 [インドネシア]ガジャマダ大学 | 持続可能な運輸のための地域横断バイオ燃料の共同研究 |
| 11 | 東京科学大学 | チャン・フ・ズイ 生命理工学院 助教 | 若手人材 | [ベトナム]ホーチミン市工科大学 | 天然生体材料に基づく次世代バイオ半導体の開発：日本・ASEAN計算科学と組織工学の統合 |
| 12 | 東京科学大学 | 吉村 千洋 環境・社会理工学院 教授 | 若手人材 | [カンボジア]カンボジア工科大学 [インドネシア]国家研究イノベーション庁 | 湖沼の炭素循環研究を基盤とした持続可能な社会に貢献する人材育成 |
| 13 | 東京都市大学 | 斉藤 圭 都市生活学部 教授 | 若手人材 | [マレーシア]マレーシア工科大学 | 気候変動社会における都市環境改善に資するアクティブ技術とハッシュ技術の相互補完によるグリーンインフラ構築に向けた未来志向の学術交流 |
| 14 | 東京都市大学 | リジャル・ホーム・バハドウル 大学院環境情報学研究所 教授／研究科長 | 若手人材 | [マレーシア]マレーシア工科大学、マレーシア日本国際工科院 | 都市気候適応のためのグリーンテクノロジーに関する次世代リサーチの育成 |
| 15 | 東京工科大学 | 中私 周 工学部 電気電子工学科 教授 | 若手人材 | [ベトナム]カントー大学 | 2次元層状物質半導体材料を用いた新規センサーデバイスの共同開発を志向した交流 |
| 16 | 横浜市立大学 | 立川 仁典 大学院生命ナノシステム科学研究科 学長補佐・研究科長・教授 | 若手人材 | [タイ]チェンマイ大学、チュラロンコン大学、タマサート大学 ほか | グリーンテクノロジーを拓く量子水素シミュレーションと女性研究者育成：日タイ大学連携による持続可能な国際協働 |
| 17 | 新潟大学 | 馬場 暁 工学部 教授 | 若手人材 | [タイ]チュラロンコン大学、プリンスオブソンクラ大学 [ベトナム]ハノイ工科大学 [カンボジア]カンボジア王立ブノベン大学 ほか | 持続可能な未来を共創する日メコン環境・エネルギー若手人材交流—G-DORMから国際共同研究へ— |
| 18 | 長岡技術科学大学 | 大塚 達市 システム安全系 准教授 | 若手人材 | [マレーシア]マレーシア国民大学 | メタマテリアル接合体の機械的性質評価 |
| 19 | 長岡技術科学大学 | 佐々木 徹 技術科学イノベーション系 教授 | 指導人材 | [ベトナム]ホーチミン市技術師範大学、ベトナム国家大学ホーチミン市校工科大学 | 大気圧プラズマを利用した機能性グラフェンの生成技術とその応用 |
| 20 | 金沢大学 | 原 宏江 理工研究域 地球社会基盤学系 准教授 | 若手人材 | [フィリピン]フィリピン大学ロスバニョス校 | 水環境中の新興汚染物質の先端監視技術に関する研修プログラム |
| 21 | 北陸先端科学技術大学院大学 | 長尾 祐樹 先端科学技術研究所 教授 | 若手人材 | [マレーシア]マレーシアバハナルスルタンアブドゥラ大学、マレーシア工科大学、マレーシア国民大学 ほか | 日・マレーシア エネルギー変換・貯蔵ハブ拠点形成と若手人材交流 |

| No. | 日本側交流機関 | 実施主担当者 | コース | 相手国側交流機関 | テーマ |
|-----|-------------------|-----------------------------------|------|---|--|
| 22 | 名古屋大学 | 三屋 史朗 大学院生命農学研究科 准教授 | 若手人材 | [カンボジア]カンボジア王立農業大学 [タイ]カセサート大学 | 先端グリーンバイオテクノロジーによるDAC農業イノベーションと持続可能な未来を創出する国際農学研修 |
| 23 | 京都大学 | 尾形 清一 大学院エネルギー科学研究科 准教授 | 指導人材 | [タイ]タイ国立科学技術開発庁、タイ国立金属材料技術研究センター | ペロブスカイト太陽電池技術の持続可能性評価と営農型太陽光発電への応用 |
| 24 | 京都大学 | 木谷 公哉 東南アジア地域研究研究所 助教 | 指導人材 | [タイ]コンケン大学、チェンマイ大学、チェンマイラチャバット大学 ほか | タイ大学・研究機関における研究データ管理人材育成と人材ネットワーク構築への支援 |
| 25 | 京都大学 | 佐野 紀彰 工学研究科 教授 | 若手人材 | [タイ]マヒドン大学、タイ国立ナノテクノロジーセンター、コンケン大学 ほか | CO2から高付加価値物を生産する技術の国際共同開発に資する人材の育成 |
| 26 | 立命館大学 | 堤 治 生命科学研究所 教授 | 若手人材 | [タイ]カセサート大学 | セルロース由来キララ場とりん光材料を融合したグリーン・フォトリソ材料 |
| 27 | 大阪大学 | 宇山 浩 大学院工学研究科 教授 | 若手人材 | [タイ]コンケン大学、チュラロンコン大学、チェンマイ大学 [ブルネイ]ブルネイ工科大学 [マレーシア]マレーシアサインズ大学、マレーシア工科大学 ほか | 持続可能社会を拓く日ASEANグリーンポリマー次世代人材育成 |
| 28 | 大阪大学 | 樺山 一哉 放射線科学基盤機構 教授 | 若手人材 | [インドネシア]バジャラン大学、国家研究イノベーション庁、バンドン工科大学 | 分子レベルで高度な免疫調節作用と抗癌作用を示す新規バイオアクティブ化合物の探索 |
| 29 | 大阪大学 | 吉成 信人 大阪理学院研究科 教授 | 若手人材 | [タイ]マヒドン大学、カセサート大学 [マレーシア]マレーシアサインズ大学 | 革新的なグリーン電池開発を先導する理学人材の交流プログラム |
| 30 | 奈良先端科学技術大学院大学 | サクティ・サクリアニ・ワティアスリ 先端科学技術研究科 教授 | 若手人材 | [シンガポール]南洋理工大學 [インドネシア]バンドン工科大学 [フィリピン]デラサル大学 ほか | ソサエティ5.0のレジリエンス：ASEANにおける重要インフラと新興技術分野での人間-AI協働 |
| 31 | 奈良先端科学技術大学院大学 | 別所 康全 先端科学技術研究科 教授 | 若手人材 | [インドネシア]国家研究イノベーション庁、ガジャマダ大学 [タイ]チュラロンコン大学、マヒドン大学、カセサート大学 | インドネシア・タイNAIST同窓会員をハブとした革新的バイオサイエンス人材交流 |
| 32 | 山口大学 | 今井 剛 大学院創成科学研究科 教授 | 若手人材 | [タイ]コンケン大学、プリンスオブソングクラ大学、コンケン大学付属校中等教育部 ほか | 脱炭素社会実現に資する新たなイノベーション共創の関係構築のための若手人材交流（第2年度） |
| 33 | 山口大学 | 古賀 毅 大学院創成科学研究科 教授 | 若手人材 | [マレーシア]マレーシア工科大学 | 自律型EVモビリティの試作を通じた、再エネ活用・軽量製造・ASIC (Application-Specific Integrated Circuit：専用半導体回路) 一貫設計による若手研究者育成 |
| 34 | 九州大学 | 浅野 周作 大学院工学研究院 化学工学部門 准教授 | 若手人材 | [タイ]チュラロンコン大学、ブラバ大学、モンクット王工科大学北バンコク校 | カーボンニュートラル社会に向けた触媒・高分子材料研究と若手人材育成のための日タイ交流 |
| 35 | 九州大学 | 佐藤 文一 マス・フォア・インダストリ研究所 教授 | 若手人材 | [マレーシア]マレーシア工科大学 | マレーシアのグリーン分野等に対する応用数学を用いたモデリングの研究協力 |
| 36 | 九州大学 | 佐藤 文一 マス・フォア・インダストリ研究所 教授 | 指導人材 | [マレーシア]マレーシア工科大学 | マレーシアのグリーン分野等に対する応用数学を用いたモデリングの研究協力 |
| 37 | 九州大学 | 澤江 義則 大学院工学研究院 教授 | 若手人材 | [マレーシア]マレーシア工科大学 | 環境適合性先進トライボマテリアルの開発と水素エネルギーシステムへの応用を目指す研究人材交流 |
| 38 | 九州大学 | 土居 克実 大学院農学研究院 教授 | 若手人材 | [タイ]シーナカリンウィロート大学、タイ国立科学技術開発庁 | 持続的・安定的乳酸発酵生産を実現する為のファージ感染と耐性の分子機構の解明 |
| 39 | 九州大学 | 三木 一 工学研究院地球資源システム工学部門 准教授 | 若手人材 | [インドネシア]ガジャマダ大学 | 九州におけるバイオ産業・資源循環の取り組みとインドネシア・ジョグジャカルタとの協働 |
| 40 | 九州大学 | 米津 幸太郎 大学院工学研究院 准教授 | 若手人材 | [フィリピン]フィリピン大学ディリマン校 [マレーシア]マレーシアサインズ大学 [カンボジア]カンボジア工科大学 | グリーンテクノロジーを支える天然水素資源探索・二酸化炭素地中貯留に向けた日・ASEAN協働 |
| 41 | 佐賀大学 | 富永 昌人 教育研究院 自然科学域理工学系 教授 | 若手人材 | [インドネシア]カリマンタン工科大学、スラバヤ工科大学、ボルネオタラカン大学 | 魚由来アルブミンセンサーによる合成オピオイドの迅速検出 |
| 42 | 長崎大学 | 仲山 英樹 大学院総合生産科学研究科（環境科学系） 教授 | 若手人材 | [タイ]マヒドン大学 [ベトナム]カントー大学 [マレーシア]マレーシア大学トレンガヌ校 ほか | 日ASEANの持続可能な未来を共創する環境系資源循環分野の若手研究者交流プログラム |
| 43 | 国立研究開発法人物質・材料研究機構 | 内藤 公喜 構造材料研究センター グループリーダー | 指導人材 | [マレーシア]マレーシア工科大学 | ナノ強化型バイオベース接着剤の構造－特性－性能相関の解明に資する指導人材交流 |
| 44 | 国立研究開発法人理化学研究所 | 渡邊 功雄 仁科加速器科学研究センター 上級研究員 | 若手人材 | [マレーシア]マレーシア国民大学、マレーシアサインズ大学、マラ工科大学 ほか | 量子ビームとマテリアルズインフォマティクスで拓くマレーシア創発の二酸化炭素回収・リサイクル革新技術 |

※記載内容は提案書情報に基づく

2025 年度 日 ASEAN 科学技術・イノベーション協働連携事業 若手人材交流プログラム公募の概要

1. 事業・プログラムの目的

日本と ASEAN は友好協力 50 周年を迎え、関係強化が一層重要になっているとの認識の下、2023 年度より日 ASEAN 科学技術・イノベーション協働連携事業（以下、「本事業」という。）が措置されました。本事業は、これまで日本と ASEAN 諸国との間で実施してきた国際共同研究や人材交流の取り組みを基盤としつつ、ASEAN 諸国との持続可能な研究協力関係をさらに強化し、新たなイノベーションを共創していく関係へと発展させることを目指すものです。

上記の取り組みの 1 つである若手人材交流プログラム（以下、「本プログラム」という。）は、高校生を含む原則 40 歳以下の学生、研究者、教員、科学技術に関わる業務に従事する方を対象とし、先端分野などの科学技術分野全般における相互交流（派遣、招へい）を支援することにより、日 ASEAN の若手人材の交流や関係構築を図り、国際頭脳循環の活性化および次世代の優秀な研究者の育成に貢献するものです。

2. 対象とする国・地域

ASEAN（東南アジア諸国連合）に加盟する以下の 10 カ国が対象。

インドネシア、カンボジア、シンガポール、タイ、フィリピン、ブルネイ、ベトナム
マレーシア、ミャンマー、ラオス

3. 対象とする分野・テーマ

科学技術（自然科学、人文科学および社会科学）分野の交流全体を対象とします。

本事業の国際共同研究プログラムにおける日本と相手国の共通重点分野などを踏まえ、本プログラムでは、以下の相手国との共通重点分野の交流計画を推奨しています。

- ・フィリピン：「水安全保障」および「スマート農業」、並びにこれに関連する分野をテーマとした交流計画
- ・シンガポール：「AI」および「量子」、並びにこれに関連する分野をテーマとした交流計画
- ・タイ：「グリーンテクノロジー」および「バイオテクノロジー」、並びにこれに関連する分野をテーマとした交流計画
- ・マレーシア：「グリーンテクノロジー」および「先端材料」、並びにこれに関連する分野をテーマとした交流計画
- ・インドネシア：「バイオものづくり」およびこれに関連する分野をテーマとした交流計画
- ・ベトナム：「半導体」およびこれに関連する分野をテーマとした交流計画

4. 交流コース

本プログラムは 2 コースから構成されます。

（1）若手人材交流コース

原則 40 歳以下の日 ASEAN の若手人材の双方向の交流を通じて人材を育成し、国際頭脳循環の促進、機関間協力の基盤強化や、将来の国際共同研究などを担う人材層の拡充に資する交流

計画を対象とします。

- ・ 交流期間：最大 1 年間、招へい・派遣期間は最大 90 日／人
- ・ 対象：原則 40 歳以下の高校生、高等専門学校生、大学生、大学院生、ポスドクター、教員、公的機関で科学技術に関連する業務に従事する者および民間企業において研究開発業務などに従事する者
- ・ 参加人数（引率者を含める）：15 名以下
- ・ 支援金額：原則 700 万円以内

(2) 指導人材交流コース

研究および教育・研究指導力の向上を目指す日 ASEAN の高等教育機関の教員などが、双方向の交流を通じて研究力や若手人材への指導力を向上させることで、機関間連携の深化・強化や若手人材の育成などの人材育成基盤強化に資する交流計画を対象とします。

- ・ 交流期間：最大 1 年間、招へい・派遣期間は最大 90 日／人
- ・ 対象：ポスドクター、教員、公的機関で科学技術に関連する業務に従事する者および民間企業において研究開発業務などに従事する者
- ・ 参加人数：2 名以下
- ・ 支援金額：原則 300 万円以内